

# 令和7年度 墨田区立中和小学校経営方針

墨田区立中和小学校  
校長 影山 祥仁

## 「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」

### ～子供たちの笑顔を広げよう中和の輪～

#### 1 経営目標

- (1) すべての教育活動は子供たちのために行う  
学校の主役は子供たちなので、子どもたちの自己実現を支援し、成長を促すことを目指し、保護者や地域とともに協働していく。  
常に、子どもの目の高さで物事を見つめ 理解・活動する等、子どもも教職員も共に伸びる教育実践を目指す。
- (2) 「知」「徳」「体」バランスのとれた質の高い教育を行う  
「学校力」（学校の教育力）、「教師力」（教師の力量）を強化して、子どもの「人間力（生きる力）」を育むための、質の高い教育に取り組む。
- (3) 確かな学力を育む学習指導！を実践する  
子供たち一人一人のよさや可能性を見だし、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「深い学び」を通して、「確かな学力の定着」を図り、達成感を味わわせる。
- (4) 信頼されるプロ教師としての自覚をもつ  
教職員は、常に指導力を磨き・高め、「範」を示してほしい。子供たちの生きる力を育むために、一つの目標に向かって、助け合い、認め合い、高め合う「信頼されるプロの教師集団（チーム中和）」を目指す。
- (5) 失敗しても何度でも立ち直る力（レジリエンス）を育む指導を行う  
感情をコントロールし、自尊感情を高め、自己効力感を高め、成功体験を積み重ね、自分の成長を感じることで、レジリエンスを鍛えていく。
- (6) 安全・安心で、居心地のよい学校づくり  
学校は、安全で安心できる場所でなくてはならない。子供も教職員も「学校に居場所」があり、日々穏やかに過ごし、充実感・有用感のある学校を目指す。
- (7) 「信頼」と「絆」を深める開かれた学校！を目指す  
子供の教育には、強い信頼に基づく、学校、家庭・地域の連携と協力・役割分担が必要である。そのために、保護者・地域への積極的な情報発信と学校評価による改善、地域の人材・施設・環境を積極的に活用する等、コミュニティ・スクールの充実した学校づくりを目指す。

## 2 教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広く国際社会や地域社会において、信頼と尊敬を得られる人間の育成を目指し、健康で自他の人格を重んじ、創造性に富み実践力のある児童を育成するために、次の目標を設定する。

- よく考えて工夫する子ども（本年度の重点目標）
- 自主性に富み責任感の強い子ども
- 心ゆたかで思いやりのある子ども
- 健康で明るい子ども

## 3 学校経営の基本理念

中和小学校は、開校151周年を迎え、これまでの教育活動のよさや成果を継承するとともに、墨田区教育委員会の教育目標や基本方針を踏まえ、時代や社会の変化に対応できる新しい学校教育の創造に努める。

また、学習指導要領の理念を踏まえ、墨田区教育委員会の捉えた教育課題に対応しながら、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、将来どのような環境に置かれても、周りの人と協働しながら目の前の課題に立ち向かい、よりよい生き方を選択できる「生きる力」を育むことができる組織的で協働的な教育活動が展開される学校経営を目指す。

### 【目指す学校像】

教育目標達成のため、全教職員が家庭や地域との連携を図りながら、校外の教育力を効果的に活用し、質の高い教育活動を意図的・計画的・組織的に実施できる学校を目指す。

- ・児童にとって、安心・安全が確保され、しっかり学び、元気に遊べる学校
- ・児童のために日々自己研鑽に邁進する教職員集団の学校
- ・歴史と共に、チーム中和として、学校と保護者・地域が一体となって教育活動を行う学校

### 【目指す児童像】

自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り開くために必要な学力、自他を大切にする優しさやレジリエンス、たくましい体と強い意志を育てていく。

- ・自分の思いや考えをしっかりとち、しっかり表現できる子供
- ・気持ちの良い挨拶を自然に行い、他者を思いやる行動ができ、すすんで共生・共助に努める子供
- ・物事を自分事としてとらえ、最後まであきらめずに取り組んでいく子供

### 【目指す教職員像】

保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもち、教育目標の実現と教育課程の計画的実践に全力で取り組む。また、児童のよさや可能性を最大限に引き出し、伸ばし、個々の将来につなげていくために、組織的に取り組める教職員集団を目指す。そのために、児童や保護者、地域の方々とのコミュニケーションを大切にする。

- ・家庭や地域と連携し、子供一人一人のよさを認め、支え、伸ばすことのできる教職員
- ・指導力向上を目指して互いに学び合い組織で動くことができる教職員
- ・高い人権意識をもち、豊かな人間性を育てていく教職員

## 4 学校経営の基本方針

### (1) 生涯学習の基盤となる確かな学力を身に付ける

- ・ きめ細やかな指導を行い、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。  
→個に応じた指導、少人数指導、学習補習教室、ICT機器の活用
- ・ 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた授業改善を図る。  
→効果的な指導方法の開発（デザイン化）に向け、実践的な研究や研修を行う。

### (2) 自他の命を尊重するとともに、思いやりと規範意識を育てる

- ・ 全ての教育活動で、かけがえのない命について学ばせる。
- ・ 児童の多様な課題に対し、個人で対応するのではなく、学年等複数で対応する。
- ・ 互いに認め合い、ともに学び合う学校を目指す。

### (3) 新しい教育活動とライフ・ワーク・バランスの推進

- ・ 計画的・組織的に教育活動を実践し、教育目標の達成を目指す。
- ・ teams を活用し、情報共有を図り、効率的に会議等を行うことで、「学校における働き方改革推進プラン」の趣旨に基づいたライフ・ワーク・バランスを推奨する。

### (4) 自分に誇りを持ち、社会の形成に参画する基礎を培う教育の推進

- ・ 学校や地域の教育環境を積極的に活用し、「歴史と文化」「環境問題」「国際社会」等への関心と理解を深め、実践する教育を推進する。
- ・ 日本の伝統文化に関心を持ち、外国語活動を通して豊かな国際感覚を養う。

## 5 教育目標実現のための方策

### (1) 中・長期的目標と方策

墨田区教育振興基本計画の目標を大切にしながら、体験活動を基盤に置き、児童に「社会的自立の基礎」を身に付けさせていく。

#### 【確かな学力】

- ① 児童が「わかる」「楽しい」「できた」を実感できる教育活動の実践
- ② ICT 教育の充実
- ③ 基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」を意識し、インプット型からアウトプット型の授業へ
- ⑤ 校内研究を通して、学力向上への手立てを提案し、実践する。

#### 【落ち着いた学校生活】

- ① 学校を安全な教育の場とし、安心して学ぶことのできる教育環境の中で心身ともに健康な児童を育む。
- ② 友達の良さを見付け、互いに高め合うことにつながる授業の実践
- ③ 気持ちの良い挨拶と良い返事を当たり前のように行う。

#### 【授業の改善と充実】

- ① 教師の授業力を高め、ICT 機器も活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ② 自力解決学習や体験的学習など、学習活動の充実を図り、児童の学びを深める。

#### 【体力向上と健康増進】

- ① 体力や運動能力を向上させるために、運動の習慣化を実践する。

・「一校一取組」「一学級一取組」運動の充実を図る。縄跳びや持久走の取組等。

## ② 授業内での運動の質と量の確保

### 【保護者や地域との協働】

～保護者や地域との信頼関係を構築し、学校に関わる全ての人に

「ウェルネス」「ウィルビーイング」な学校を目指す～

- ① 「中和の輪」を意識し、チームで教育活動を実践する
- ② 地域教材の開発や地域人材の活用を積極的に推進し、教育活動の充実を図る。
- ③ 公開授業やHPを活用し、学校の情報発信に努める。
- ④ 地域と連携した防災教育の充実

## (2) 短期的目標と方策

### 【学力向上・授業力向上】

- ・学習指導要領の円滑な実施と教育課程の計画的実施を行う。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を意識し、インプット型からアウトプット型の授業へ。
- ・ミライシードやロイロノート等のアプリを効果的に活用し、基礎・基本の定着や思考力を高め、楽しくわかる授業を行う。
- ・タブレットを活用した家庭学習や日々の振り返り学習を通し、学習内容の定着を図る。
- ・カリキュラムマネジメントを意識した学習活動を実施する。
- ・図書館を使った調べる学習を実施していく。そのために普段の授業から調べる活動を行い、考えながら自分の意見をまとめられるようにする。
- ・外国語指導員を活用し、外国語担当教員を中心に、外国語活動の充実を図る。
- ・ICT機器を道具として活用し、児童が主体的に学ぶ授業を行う。
- ・学校支援指導員やSST、学習指導講師等の活用により個に応じた指導の充実を図る。
- ・授業観察を年3回以上実施し、教員同士がお互いの授業を見合う相互授業観察を行うことで授業改善を図る。
- ・OJT研修や区小研、校外の研修などに積極的に参加し、授業力向上に励む。

### 【生活指導】

- ・全教職員共通理解のもと、学習や生活習慣の定着を図り、規範意識を育む、
- ・支援を必要とする児童を取り巻く児童に対する心の育成を強化し、いじめや差別のない学級・学年・学校づくりに努める。
- ・児童一人一人が自尊感情を育めるよう、意図的な励ましの時間や、子供同士で互いのよさや成長を認め合う機会を設定する。
- ・目指す学級像を明確に示し、児童とともに学級目標をつくっていく。
- ・「中和学習スタンダード」を徹底し、学習に向かう姿を確立する。
- ・道徳・いじめに関する授業を計画的に実施し、児童の人権感覚を養う。
- ・現象面だけを捉えて指導するのではなく、日頃から児童一人一人に寄り添うことで児童の内面や背景まで理解した上で、個に応じた指導を心がける。
- ・一人で対応するのではなく、学年会などで困っていることや相談事を気軽に話せる雰囲気と場を設ける。

- ・小さな事でも学年や管理職との情報共有をきちんと行う。

#### 【保護者や地域との連携】

- ・普段から連絡を密にするとともに、地域行事やPTA行事に積極的に参加し、コミュニケーションの機会をもつ。
- ・「見える対応、素早い対応、一歩先行く対応」を心がけ、保護者や地域からの要望や意見に誠意をもって対応する。そのための報告・連絡・相談を徹底し、組織で対応していく。
- ・計画的に教室内や廊下等の掲示を工夫し、児童の学習活動の様子が見えるものにする。
- ・地域に関わる学習や地域人材を生かした授業を行い、児童の「生きる力」を育む。
- ・葛飾北斎、相撲、太鼓、職人の技などの体験学習を通して、伝統文化に触れる機会をもつ。

#### 【教育公務員としての自覚と誇り】

- ・教育公務員の職務上・身分上の義務を認識し、全体の奉仕者としての自覚を高める。
- ・身だしなみや言動に気を付け、教育公務員であるという自覚をもち、指導者としての気品を備える。また、来校者には誠意をもって接する。
- ・人権尊重の精神を基調に、体罰やいじめのない学校づくりに努める。

学校と保護者や地域の方々と形成する「中和の輪」

そして、協働して教育活動を行う「チーム中和」